

第2回検討会
2021.7.12
資料1

第40回全国都市緑化仙台フェア
基本計画（最終案）

令和3年 月

仙 台 市

公益財団法人都市緑化機構

目次

1	全国都市緑化フェアについて	1
2	全国都市緑化仙台フェア開催の意義	2
2-1	「杜の都」のあゆみ	2
2-2	仙台における開催の意義	4
3	全国都市緑化仙台フェア開催の基本理念及び基本方針	6
3-1	テーマ・愛称、基本理念	6
3-2	基本方針	7
4	基本的事項	8
4-1	名称等	8
4-2	主催者等	8
4-3	開催期間	8
4-4	会場	8
4-5	入場方式	8
4-6	目標入場者数	8
4-7	事業費	8
4-8	シンボルマーク	8
5	会場計画	9
5-1	会場構成	9
5-2	会場づくりの基本コンセプト	9
5-3	メイン会場	11
5-4	まちなかエリア会場	19
5-5	東部エリア会場	20
5-6	連携会場	21
6	事業計画	22
6-1	展示計画	22
6-2	出展計画	23
6-3	協働推進計画	24
6-4	行催事計画	25
6-5	観客誘致・広報宣伝計画	27
6-6	飲食・物販計画	29
6-7	会場運営・交通輸送計画	30
6-8	植物調達監理計画	33
7	事業推進計画	34
7-1	事業推進体制	34
7-2	事業スケジュール	34

1 全国都市緑化フェアについて

(1) 全国都市緑化フェアの概要

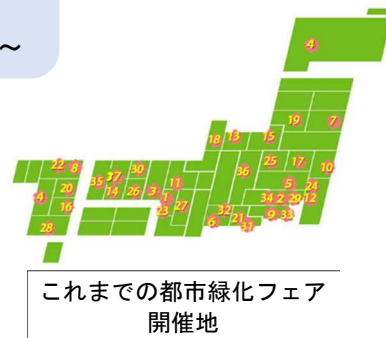
① 全国都市緑化フェアの目的・統一テーマ

全国都市緑化フェアは、都市緑化の意識の高揚、都市緑化に関する知識の普及等を図ることにより、国、地方公共団体及び民間の協力による都市緑化を全国的に推進し、もって緑豊かな潤いのある都市づくりに寄与することを目的として開催するものです。

全国都市緑化フェア 統一開催テーマ
「緑ゆたかなまちづくり」
 ～窓辺に花を・暮らしに緑を・街に緑を・あしたの緑をいまつくろう～

② 開催実績等

昭和 58 (1983) 年度に第 1 回が大阪で開催されて以来、全国各地で巡回して開催されています。仙台市においては平成元 (1989) 年に、第 7 回全国都市緑化せんだいフェアを開催しています。



〈近年の開催自治体〉

	第 35 回・山口 平成 30 年度 (2018)	第 36 回・信州 令和元年度 (2019)	第 37 回・広島 令和 2 年度 (2020)	第 38 回・熊本 令和 3 年度 (2021)	第 39 回・北海道 令和 4 年度 (2022)
開催自治体	山口県・山口市	長野県・松本市・ 大町市・塩尻市・ 安曇野市	広島県・広島市 ほか 22 市町	熊本市	北海道・恵庭市



第 35 回やまぐちフェア
山口きらら博記念公園



第 36 回信州フェア
長野県松本平広域公園



第 37 回ひろしまフェア
広島市中央公園

〈本市での開催実績〉

‘89 グリーンフェアせんだい
(第 7 回全国都市緑化せんだいフェア)
 主催：仙台市・(財) 都市緑化基金
 会場：[主会場]七北田公園
 [都心会場]勾当台公園
 [協賛会場]国営みちのく杜の湖畔公園
 会期：平成元 (1989) 年 7 月 29 日 (土)
 ～10 月 16 日 (月) 80 日間
 来場者数：1,385,742 人
 開催テーマ：「都市と緑の調和をもとめて
 一いま、杜の都の新時代」

2 全国都市緑化仙台フェア開催の意義

2-1 「杜の都」のあゆみ

(1) 「杜の都」のいわれ

今から約400年前、伊達政宗公は、家臣に対して屋敷内への植樹を奨励しました。こうしてできた屋敷林は、周辺の社寺林、広瀬川河畔、青葉山などのみどりと一体になり、まち全体がみどりに包まれていました。明治42(1909)年には、観光案内書に「森の都」と記載され、昭和に入って間もない頃には、「杜の都」と呼ばれるようになりました。



緑ゆたかな仙台(戦前の絵葉書)

(2) 戦災復興により新たに形成された「杜の都」

昭和に入っても屋敷林の多くは維持されていましたが、昭和20(1945)年、仙台空襲により豊かな緑は焼失してしまいました。戦災復興の過程で、昭和25(1950)年、青葉通にケヤキの植栽が開始され、以後、市内の他の街路でも植栽が段階的に進められ、併せて公園についても整備が進められていきました。こうして「杜の都」のみどりは、青葉通や定禅寺通の街路樹、青葉山公園や西公園などの街の緑と、そこから連続する広瀬川や周辺地域の緑に代わってきました。

(3) 杜の都の環境をつくる条例の制定等による都市化への対応

高度経済成長期における都市化の影響により市街地周辺部の自然環境が変化したことを受けて、昭和48(1973)年、仙台市は、自然との調和ある環境の創造と杜の都の伝統ある風土の発展を目指し、「杜の都の環境をつくる条例」を制定しました。これにより、市街地近郊の開発を抑制するため保存緑地への指定や、地域的美観風致を維持するため保存樹林や保存樹木への指定が行われました。また、昭和49(1974)年には、広瀬川の自然環境や景観と水質を一体的に保全するため、「広瀬川の清流を守る条例」を制定しました。

(4) 「百年の杜づくり」の推進

その後、平成9(1997)年には「緑の基本計画(仙台グリーンプラン21)」、平成11(1999)年にはアクションプランとして「百年の杜づくり行動計画」を策定し、市民協働による緑の保全、創出、普及を掲げた「百年の杜づくり」*を推進してきました。

(5) 震災復興とみどりの再生

平成23(2011)3月に発生した東日本大震災の津波により、海岸林や海岸公園、周辺の居久根が失われるなど、仙台市東部地域を中心としてみどりに大きな被害を受けました。平成25(2013)年からは、子どもから大人までの市民や、各団体、企業などと行政が一体となって海岸防災林など東部地域のみどりの再生を目指す「ふるさとの杜再生プロジェクト」を始動、平成30(2018)年には海岸公園の全面利用を再開するなど、失われたみどりの再生が進められています。



再開した海岸公園(荒浜地区)

* 「百年の杜づくり」
これまで受け継ぎ、育んできたみどりを百年というときをかけて次の世代へと伝えていくため、長期的展望を持ちながら、市民・事業者・行政が協働して緑の保全・創出・普及を進め、緑の中に都市が包まれる新しい杜の都を創造していく取組み。

年表 「杜の都」のあゆみ

江戸時代	仙台藩祖伊達政宗公が武家屋敷への植樹を奨励。これによりできた屋敷林が森のように城下町を覆うようになる	杜の都の始まり	
明治 8 (1875)	桜ヶ岡公園（西公園）が開園		
明治 42 (1909)	観光案内書「仙臺松島塩釜遊覧の栞」に「森の都」の表記がされる	戦災復興に伴う街路・公園整備	
昭和 20 (1945)	仙台空襲により市街地のみどりが焼失		
昭和 21 (1946)	戦災復興事業として都市計画街路及び公園の建設計画が決定される		
昭和 25 (1950)	街路樹の植栽を開始（青葉通ケヤキ：昭和 25 年～、定禅寺通ケヤキ：昭和 33 年～）		
昭和 28 (1953)	青葉山公園が開園		
昭和 37 (1962)	仙台市が「健康都市宣言」を発表。梅田川の浄化活動が進展		
昭和 39 (1964)	児童公園愛護協力会（現在の公園愛護協力会）が結成		
昭和 46 (1971)	市民投票においてケヤキが市木に選定される		
昭和 48 (1973)	「杜の都の環境をつくる条例」を制定。その前文にて「杜の都」が公式表記となる		
昭和 49 (1974)	「広瀬川の清流を守る条例」を制定		都市化への対応
昭和 50 (1975)	「杜の都の環境をつくる条例」に基づき保存緑地、保存樹林、保存樹木を指定		
昭和 54 (1979)	昭和 53 年の宮城県沖地震によるブロック塀倒壊を受けて、生け垣づくりに対する支援制度を開始		
平成 1 (1989)	仙台市が政令指定都市となる 全国都市緑化仙台フェア（'89 グリーンフェアせんだい）を開催		
平成 9 (1997)	「仙台グリーンプラン 21」を策定		
平成 11 (1999)	「仙台グリーンプラン 21」のアクションプランとして「百年の杜づくり行動計画」を策定		
平成 18 (2006)	「杜の都の環境をつくる条例」を改定		
平成 23 (2011)	東日本大震災の津波により東部地域の海岸林や海岸公園のみどり、居久根が失われる		
平成 25 (2013)	「ふるさとの杜再生プロジェクト」により海岸林の植樹を開始	震災復興による東部地域のみどりの再生	
平成 30 (2018)	海岸公園の全面利用を再開		

2-2 仙台における開催の意義

「杜の都」と呼ばれるようになった歴史は、古くは伊達政宗公による植樹の奨励にまで遡りますが、これまでの歴史の中で戦災による焼失や急速な都市化によるみどりの喪失、そして震災といった困難に見舞われた際にも、仙台の地に暮らした人々が力をあわせ、みどりを大切に育み親しんできたことが、今ある豊かなみどりや自然と調和した都市環境の礎となっています。

今日まで、連綿と続く「杜の都・仙台」のストーリーを今一度振り返り、仙台市民の誇りとするとともに、さらなる発展への契機とできるよう、仙台において全国都市緑化フェアを開催する意義を次のとおり整理しました。

(1) 次世代へと続く新たな「百年の杜づくり」

伊達政宗公が武家屋敷へ植樹を奨励したことに端を発する「杜の都」のみどりは、戦災復興の中で整備された街路樹や都市公園によりその骨格が形作られ、その後、「自然との調和ある環境の創造」を理念として掲げた「杜の都の環境をつくる条例」(1973年制定)及び「広瀬川の清流を守る条例」(1974年制定)のもと、みどり豊かな自然環境と風格のある都市空間がともに形成されてきました。そして緑化フェアの開催される令和5年度(2023年度)には、「杜の都の環境をつくる条例」の制定から50周年となる節目を迎えます。



昭和26年の青葉通での植樹
(出典：杜の都仙台の街路樹)

これまでのみどりを守り育ててきた取組みを振り返るとともに、その多様な機能に着目したグリーンインフラ*の考えを市民・事業者と共有しながら、次世代へと続いていく新たな「百年の杜づくり」を推進します。

(2) みどりと親しむ生活と新たな交流の創出

緑化フェアのメイン会場となる、青葉山公園、西公園、広瀬川、そして青葉通や定禅寺通などに代表される美しい並木が連なる都心部の「緑の回廊」は、長い歴史の中で市民に生まれ親しまれてきた「杜の都・仙台」のシンボルです。

人々が集い憩う景勝地を初めて「公園」と定めた太政官布達から150周年となる令和5年度を、公園や街路樹をはじめとしたみどりの様々な機能や、暮らしの中でみどりに親しみ憩うことの価値を再認識する契機とします。



GREEN LOOP SENDAI
(出典：仙台市広報課)

また、緑化フェアの開催に併せ、本市の魅力の世界に誇れる杜の都ブランドとして発信するとともに、仙台の魅力に惹かれて国内外から来訪する人々との新たな交流を創出します。

* グリーンインフラ

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組み。雨水の貯留・浸透による防災・減災、生物の生息・生育の場の提供、良好な環境・景観の形成、気温上昇の抑制などの機能のほか、コミュニティ形成の促進、レクリエーションや健康増進など多様な活動が行われる場となるなど、様々な効果が期待される。

(3) 東日本大震災からのみどりの復興と防災のまちづくりの発信

東日本大震災は多面的かつ甚大な被害をもたらしましたが、かさ上げ道路の整備とともに、海岸公園の復旧や海岸防災林などみどりの再生も進め、まさにグリーンインフラを取り入れた防災機能を高めてきました。

東日本大震災の発生から東北初となる緑化フェアの開催を通じて、被災時にいただいた支援への感謝とともに、みどりを活かしながら市民と一体となって取り組んできた復興のあゆみ、そして防災力の高いまちづくりを国内外へと発信します。



仙台市東部沿岸地域での市民植樹

3 全国都市緑化仙台フェア開催の基本理念及び基本方針

3-1 テーマ・愛称、基本理念

「杜の都・仙台」の多様な機能を持つみどりが形づくられてきた歴史のあゆみを辿り、その大切さを見つめなおすとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により引き起こされつつある社会的変革の先にある「新たな杜の都」の創造に向けて、次に掲げるテーマ・愛称、理念をもとに全国都市緑化仙台フェアを開催します。

<テーマ>

杜の都から始まる未来、みどりを舞台に人が輝く

<愛称>

未来の杜せんだい 2023 ～Feel green!～

「杜の都」と呼ばれる本市において、これまで大切に育まれてきたみどりを未来に繋げていくことの重要性を表現しました。

仙台市基本計画では、まちづくりの理念に「挑戦を続ける、新たな杜の都へ ～“The Greenest City” SENDAI～」を掲げており、全国都市緑化仙台フェアの開催を通して、多くの方に杜の都のみどりを体感していただくことにより、その実現を目指します。

<基本理念>

百年先の、みどり豊かな杜の都を育むために

市民と事業者、そして未来を担う子どもたちとともに、“自然との調和ある環境の創造”を目指してきたまちづくりを振り返り、これまで培ってきたみどりの大切さや素晴らしさについて学び、気づく機会を創出し、担い手の育成はもとより、次世代へと続く「百年の杜づくり」へとつなげます。

杜の都のみどりと親しむライフスタイルの発見、そして人の交流があふれるまちへ

日常生活や余暇にみどりを積極的に取り入れた、仙台ならではのライフスタイルや働き方、みどりの活用のあり方などの発見を目指すとともに、長い歴史とともに育まれてきたみどりが人や企業を呼び込む力となるよう、「杜の都・仙台」の魅力を国内外へ向けて発信し、新たな交流やさらなる都市活力を生み出します。

復興からその先へ、みどりを未来へつなげる

震災からの復興にあわせ進めてきた防災・減災の取組みや、被災沿岸部のみどりの再生の取組みを発信・継承し、しなやかで強靱な都市、そして自然と調和した持続可能なまちづくりを進めるため、グリーンインフラの考えを取り入れ、ハード・ソフトの両面からみどりが持つ多様な機能に着目し、未来へ向けその可能性をさらに広げる機会とします。

3-2 基本方針

仙台フェアの開催は、持続可能な開発目標であるSDGs*の達成にも貢献するものです。次に示す基本方針もとに仙台フェアを開催することにより、基本理念を実現するとともに、未来へと継承します。また、温室効果ガスの排出削減や、ごみの減量・リサイクルの推進など十分に環境配慮の視点を取り入れフェアを実施します。



社

1. 社の都のみどりの可能性を発信するフェア

- ・「社の都」を育ててきた歴史やみどりの復興のあゆみを共有し、その大切さを学び、レガシーへとつなげる機会の創出
- ・防災・減災、気候変動適応、生活環境向上、生物多様性保全など多様な機能や効果を持つグリーンインフラの大切さの共有
- ・新たな生活様式や働き方のもとでみどりが果たす役割についての取組みの試行

感

2. 社の都のみどりを体感するフェア

- ・青葉山・広瀬川の自然環境や、定禅寺通などの美しい景観を活かした「社の都らしさ」あふれる会場展開
- ・豊かな自然や草花に触れ、憩い、遊び、楽しむ、みどりの素晴らしさを発見・実感できる場づくり

次

3. 次世代の担い手を育むフェア

- ・子どもたちや若者も含めた幅広い世代の市民や事業者とともに実施するフェア
- ・フェア開催後の緑化推進活動等の担い手の育成や、グリーンインフラを市民との協働で支えるグリーンコミュニティの形成など、レガシーへとつなげる仕組みづくり
- ・自然とのふれあいや環境学習、緑化保全の知識や技術の普及など未来へとつながる機会の提供

暮

4. みどりと花に囲まれたライフスタイルを生み出すフェア

- ・市民の暮らしの向上につながるみどりや花が身近にあるライフスタイルの提案
- ・みどりに人が集い、賑わう、仙台ならではの空間利用のあり方の創出
- ・みどりある空間の新しい楽しみ方のアイデアが湧き出るような機会の場づくり

賑

5. みどりを通じて人がつながり、まちが賑わうフェア

- ・“訪れたい、暮らしたい、参加したい”を呼び起こすまちの魅力や仕組みづくり
- ・みどりが人々の周遊や消費を生み出し、地域経済の活性化へとつなげる取組み

緑化フェア理念の継承

* SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)

2015年の国連サミットで採択された2030年までの国際社会共通の目標。持続可能な社会を実現するため、「誰一人取り残さない」を理念とし、地球規模の課題である貧困や飢餓、気候変動、森林や生態系の保全等に関する17のゴール(目標)と169のターゲットを掲げている。

4 基本的事項

4-1 名称等

〈名称〉 第40回全国都市緑化仙台フェア

〈愛称〉 未来の杜せんだい2023 ～Feel green!～

4-2 主催者等

提 唱：国土交通省

主 催 者：仙台市、公益財団法人都市緑化機構

事業主体：第40回全国都市緑化仙台フェア実行委員会

4-3 開催期間

令和5（2023）年4月26日（水）～6月18日（日）（54日間）

4-4 会場

（1）メイン会場

青葉山公園追廻地区、西公園南側地区、広瀬川地区（公園2地区の周辺）をメイン会場とします。

（2）その他の会場

緑化フェアの盛り上がりが市全体へと広がるようメイン会場以外に、まちなかエリア会場、東部エリア会場、連携会場を設定します。

4-5 入場方式

メイン会場への入場は無料とし、一部有料のプログラムやコンテンツを実施します。

その他の会場における既存の有料施設は、現行の課金体系とします。

4-6 目標入場者数

メイン会場、まちなかエリア会場、東部エリア会場の合計で、100万人の入場を目標とします。

4-7 事業費

概ね16億円とします。

4-8 シンボルマーク

仙台で活動するクリエイターにより、仙台らしく、市民に親しまれるものを設定し、広報宣伝等に活用します。

5 会場計画

5-1 会場構成

仙台フェア開催の意義、開催テーマ、基本理念、基本方針を踏まえ、エリアごとのコンセプトを定めながら会場を設定します。

<会場構成>

会場種別・エリアのコンセプト	会場・場所
メイン会場 ・都心部の新たな緑のネットワーク拠点となるエリア	青葉山公園追廻地区 西公園南側地区 広瀬川地区（公園2地区の周辺）
まちなかエリア会場 ・都心部に回遊性を創出し、フェアの盛り上がりが街全体に波及させる取り組みを進めるエリア	都心部の街路や公園
東部エリア会場 ・震災の記憶の継承、みどりの復興の発信や、自然に触れながら家族で楽しめる事業展開を図るエリア	せんだい農業園芸センター みどりの杜 せんだい3.11メモリアル交流館 震災遺構仙台市立荒浜小学校 海岸公園 高砂中央公園（仙台うみの杜水族館）
連携会場 ・仙台フェアと連携してイベント等を開催する施設	仙台市八木山動物公園 仙台市野草園 東北大学 学術資源研究公開センター 植物園 など

5-2 会場づくりの基本コンセプト

仙台フェア開催の意義、開催テーマ、基本理念、基本方針を踏まえ、会場づくりの基本コンセプトを次のとおり設定します。

会場づくりの基本コンセプト

- ・「杜の都・仙台」の身近な自然環境やみどりの豊かさを体感・実感
- ・仙台のみどりの歴史やまちづくりを学び、その大切さや魅力を再認識
- ・いつも身近にみどりや花のあるライフスタイル、仙台ならではのみどりの空間利用を提案
- ・既存施設の効率的・効果的な活用
- ・グリーンインフラの多様な機能を知り、その可能性を広げる
- ・未来を担う子どもたちをはじめ、市民や企業等とともに作りあげる
- ・人々の周遊や消費の場を創出し、地域経済の活性化へとつなげる

<会場案内図>



5-3 メイン会場

(1) 基本的な考え方

- ・メイン会場においては、「杜の都・仙台」のシンボルである青葉山や広瀬川の自然豊かな“みどりの資源”の魅力をさらに引き上げ、自然や文化・歴史が織りなす既存の景観と調和のとれたランドスケープを展開します。
- ・青葉山公園や西公園の利用が市民のライフスタイルの一部となり、広瀬川をより身近に感じ、また訪れたい会場とします。
- ・二つの地区及び広瀬川との一体感や、まちなかエリアとの連続性を創出する会場づくりにより回遊性の向上につなげ、都心部の新たな緑のネットワーク拠点としての機能発揮を目指します。
- ・最寄駅から会場入口までの来場者導線に案内サインと合わせて花による修景を行うことにより、会場への誘導を行いながら来場者に期待感を高めていただく演出とします。

(2) 各地区のエリアコンセプト

仙台フェアの基本方針や基本的な考え方を踏まえ、各地区のエリアコンセプトを設定します。

■青葉山公園追廻地区

杜の都のみどりある暮らしを楽しむ、にぎわいのエリア

青葉山の豊かな自然や歴史文化に触れながら、「杜の都・仙台」から発信するみどりと暮らすライフスタイルを通して、花やみどりとの新たな楽しみ方や交流が生まれる賑わいのエリアとします。

■西公園南側地区

杜の都の風景や自然に親しみ、みどりと遊ぶエリア

青葉山、大橋、広瀬川の眺望を楽しみ、遊びを通して自然とのふれあいを体感できるエリアとします。

■広瀬川地区

広瀬川の新たな魅力に出会うエリア

河原に広がる花畑や散策路など川に親しみ憩う空間を創出し、広瀬川の新たな魅力に出会えるエリアとします。

メイン会場のエリア図

青葉山公園追廻地区 会場

杜の都のみどりある暮らしを楽しむ、にぎわいのエリア

青葉山の豊かな自然や歴史文化に触れながら、「杜の都・仙台」から発信するみどりと暮らすライフスタイルを通して、花やみどりと新たな楽しみ方や交流が生まれるにぎわいのエリア



西公園南側地区 会場

杜の都の風景や自然に親しみ、みどりと遊ぶエリア

青葉山、大橋、広瀬川の眺望を楽しみ、遊びを通して自然とのふれあいを体感できるエリア

広瀬川地区 会場

広瀬川の新たな魅力に出会うエリア

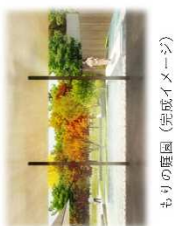
河原に広がる花畑や散策路など川に親しみ憩う空間を創出し、広瀬川の新たな魅力に出会えるエリア

メイン会場ゾーニングプラン

青葉山公園追廻地区 会場

もりの庭園ゾーン

- ・鎌政時代のまま残る青葉山の自然を感じさせる庭園や、造園の伝統の技や知恵を継承・発信する日本庭園を作庭します。
- ・庭園内に整備する雨水貯留機能などを持つ「雨庭（あめにわ）」から、グリーンインフラの多様な機能や効果を発信します。



もりの庭園（完成イメージ）

ウェルカムゾーン

- ・メインゲートを仙台フェアアのはまりにふさわしく、花で修景するとともに、ウェルカムガーデンやフォトジェニックスポットで来場者を歓迎します。
- ・〈仮称〉公園センターを仙台フェアアの総合案内所として位置づけ、イベント案内や周遊を促進する観光情報発信の拠点とします。



アーバンフォレストゾーン

- ・みどりあふれるパブリックスペースをイメージした空間演出を行い、社の都・仙台のみちなかのみどりで憩うライフスタイルを発信します。



人が輝くグリーンライフゾーン

- ・造園団体・企業が伝統の匠の技をつくした庭園や、全国の自治体による花壇が一堂に集結します。
- ・市民活動団体等の作品展示、企業のPR花壇、まちづくりに活かせる最新の緑化技術など、社の都・仙台から人の暮らしを豊かにする花やみどりの魅力を発信します。



大花壇ゾーン

- ・仙台城本丸から眼下一面に広がる、美しい色のグラデーションが楽しめる大花壇を創出します。
- ・子どもたち、市民の参画のもと植え付けを行い、花とふれあう楽しみを実感してもらいます。



広瀬川地区 会場

- ・河原一面に広がる花畑により、広瀬川の新たな魅力を創出します。
- ・公園から河川敷にアプローチする散策路や広場を整備し、広瀬川の清流を活かした親水性の高い空間づくりを行います。



グリーンスクエアゾーン

- ・広大な芝生広場で自由に憩うことができる会場とともに、芝生の憩いと賑わいをつなげるイベントを展開し、青葉山公園をより身近に感じる楽しみ方ができる場とします。



西公園南側地区 会場

水辺のテラスゾーン

- ・仙台城跡のある青葉山、大橋、広瀬川を一望できる眺望を楽しむことができ、花やみどりに囲まれたガーデンテラスを整備します。



グリーンアクティビティゾーン

- ・遊びながら自然を体感できるプログラムや、植物観察などをテーマとしたワークショップの開催等を通じて、親子で自然の大切さを学ぶことができます。
- ・西公園の森の雰囲気を活かした木陰を楽しむ空間や子ども達が自由に遊べる空間を創出します。



(3) 各ゾーンの展開イメージ

〈青葉山公園追廻地区〉

●ウェルカムゾーン

社 賑

- ・メインゲートを仙台フェアのはじまりにふさわしく、花で修景するとともに、ウェルカムガーデンやフォトジェニックスポットで来場者を歓迎します。
- ・(仮称) 公園センターを花やみどりの装飾によりおもてなしを演出するとともに、仙台フェアの総合案内所として位置づけ、イベント案内や周遊を促進する観光情報発信の拠点とします。
- ・(仮称) 公園センターでは、仙台の歴史や文化を紹介する展示や、作品出展やパネル展示、交流体験イベントなど多彩なコンテンツを展開します。



展開イメージ	事業分類
・メインゲートとしての花緑による装飾	展示
・(仮称) 公園センターでのイベントの案内や周辺観光情報の発信	会場運営
・震災からの復興についてのパネル展示	展示
・伊達文化やみどりの歴史などの杜の都のあゆみを振り返る展示	展示
・愛好家や市民の緑や花に関する活動をアピールする作品等の展示	出展

●もりの庭園ゾーン

社 感

- ・(仮称) 公園センターの南側に、藩政時代のまま残る青葉山の自然を感じさせる庭園や、造園の伝統の技や知恵を継承・発信する日本庭園を作庭します。また、その作庭過程についても公開します。
- ・庭園内に整備する雨水貯留機能などを持つ「雨庭(あめにわ)」から、グリーンインフラの多様な機能や効果を発信します。



もりの庭園(完成イメージ)

展開イメージ	事業分類
・青葉山の自然を感じさせる庭園	展示
・伝統の技や知恵を伝える日本庭園	出展
・グリーンインフラとして雨水貯留機能などをもつ修景施設	展示

●アーバンフォレストゾーン



- ・みどりあふれるパブリックスペースをイメージした空間演出を行い、「杜の都・仙台」のまちなかのみどりで憩うライフスタイルを発信します。



展開イメージ	事業分類
・ 園路や広場で憩うことのできる空間演出	展示
・ 豊かなみどりの中で楽しく食を堪能できる飲食や物販	飲食・物販

●大花壇ゾーン



- ・仙名城本丸から眼下一面に広がる、美しい色のグラデーションが楽しめる大花壇を創出します。
- ・子どもたち、市民の参画のもと植え付けを行い、花とふれあう楽しみを実感してもらいます。



展開イメージ	事業分類
・ 子どもたち、市民の参画でつくりあげる大花壇	展示 協働推進
・ 「杜の都・仙台」でのフェアの魅力を発信するフォトジェニックスポット	展示
・ 市民ボランティアの参画による花壇管理	協働推進 会場運営

●杜のリビングガーデンゾーン



- ・庭園の花やみどりを、仙台の気候風土の中で培われてきた“イグネ（居久根）”になぞらえ、自然と暮らしが調和するこれからのライフスタイルとして提案します。
- ・みどりや花があふれる庭園と飲食や休憩ができるスペースの配置を工夫し、自然を感じながらくつろげるリビングガーデンとします。



展開イメージ	事業分類
・ 花と緑に囲まれたライフスタイルを提案するテーマ型の花壇・庭園	展示
・ 自然を感じながら飲食や休憩が楽しめるくつろぎのスペース	展示
・ 豊かなみどりの中で楽しく食を堪能できる飲食や物販	飲食・物販

●人が輝くグリーンライフゾーン

社 次

- ・造園団体・企業が伝統の匠の技をつくした庭園や、全国の自治体による花壇が一堂に集結します。
- ・市民活動団体等の作品展示、企業のPR花壇、まちづくりに活かせる最新の緑化技術など、「杜の都・仙台」から人の暮らしを豊かにする花やみどりの魅力を発信します。



展開イメージ	事業分類
・ 全国の自治体等の参画によるテーマ花壇	出展
・ 造園・園芸団体等による花や緑の技術を駆使した花壇や庭園	出展
・ 愛好家や市民の緑や花に関する活動による作品展示	出展
・ 学生による造園デザインコンクール作品出展	出展
・ グリーンインフラや最新の緑化技術などを紹介する出展	出展
・ 花や緑の市民団体等が実施する園芸講座や体験プログラム	協働推進

●グリーンスクエアゾーン

暮 賑

- ・ 広大な芝生広場で自由に憩うことができる会場とするとともに、芝生での憩いと賑わいをつなげるイベントを展開し、青葉山公園をより身近に感じる楽しみ方ができる場とします。

展開イメージ	事業分類
・ デッキチェアやハンモックの貸出など芝生で自由に憩える環境整備	会場運営
・ ビジネスマンや学生の立ち寄り利用も想定したテーブル付テントサイト	展示
・ 芝生の上でのイベントの実施（芝生ヨガ、大道芸など）	行催事
・ ステージでの集客イベントの実施（音楽、パフォーマンスなど）	行催事
・ 花緑によるおもてなしの修景	展示



〈西公園南側地区〉

●グリーンアクティビティゾーン



- ・遊びながら自然を体感できるプログラムや、植物観察などをテーマとしたワークショップの開催等を通じて、親子で自然の大切さを学ぶことができる会場とします。
- ・西公園の森の雰囲気を活かした木陰を楽しむ空間や子ども達が自由に遊べる空間を創出します。



展開イメージ	事業分類
・ 木や竹などの自然素材を使った森の隠れ家やモニュメントの展示	展示
・ ツリークライミングなど森を体感しながら遊べるアクティビティプログラム	行催事
・ 石や枝を使ったクラフトづくり、虫や植物を観察するワークショップ	行催事
・ 小学生が制作したアートプランターによる修景	協働推進

●水辺のテラスゾーン



- ・仙名城跡のある青葉山、大橋、広瀬川を一望できる眺望を楽しむことができ、花やみどりに囲まれたガーデンテラスを整備します。



展開イメージ	事業分類
・ 花に囲まれた水辺のガーデンテラス	展示
・ 季節を感じる修景花壇	展示
・ 豊かなみどりの中で楽しく食を堪能できる飲食や物販	飲食・物販

〈広瀬川地区〉



- ・河原一面に広がる花畑により、広瀬川の新たな魅力を創出します。
- ・公園から河川敷にアプローチする散策路や広場を整備し、広瀬川の清流を感じられる親水性の高い空間づくりを行います。



展開イメージ	事業分類
・ 市民参加でつくる河原一面に広がる花畑	展示 協働推進
・ 広瀬川の水辺を楽しむ散策や憩いの場	展示
・ 川の水生生物の観察や、川の環境を学ぶワークショップ	行催事

5-4 まちなかエリア会場



- ・都心部の街路や公園・緑地などを「まちなかエリア会場」として、仙台のみどりを花とともに感じながら、楽しめる、寛げる、そして歩きたくなる空間を創出します。
- ・仙台駅ペDESTリアンデッキへの観光客等来訪者を迎えるウェルカムガーデンの設置、「花のライン」による街路等の修景など、歩きたくなる空間を創出します。
- ・定禅寺通では、美しいケヤキ並木や花に囲まれた憩いの空間を整備し、まちなかでの人の滞在や周遊を促進するなど、仙台ならではの新しいみどりの空間利用を発信します。
- ・市民活動団体やまちづくり団体、企業等と連携し、街路や公園でのイベント実施や花の修景を検討します。



場所	展開イメージ	事業分類
仙台駅 ペDESTリアンデッキ	<ul style="list-style-type: none"> ・ ウェルカムガーデンや花の修景植栽によるおもてなしの演出 	展示 協働推進
青葉通 宮城野通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 街のにぎわいに彩りを添えるコンテナ修景、花壇設置 	展示 協働推進
定禅寺通	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケヤキ並木や花に囲まれた憩いの空間整備、花壇設置 ・ 豊かなみどりの中で楽しく食を堪能できる飲食や物販 	展示 飲食・物販



5-5 東部エリア会場

社 次 販

- ・せんだい農業園芸センター みどりの杜においては、施設管理者との連携による会場運営とし、季節を感じられる花壇や、子ども向けの体験プログラムなどを展開します。
- ・せんだい3.11メモリアル交流館、震災遺構仙台市立荒浜小学校においては、東日本大震災で大きな被害を受けた東部地域のみどりの再生や、東部地域を中心とした復旧・復興のあゆみ、復興支援への感謝、これからのまちづくりなどを発信します。
- ・海岸公園においては、公園内の海岸防災林の再生に、市内外から子どもを含めた幅広い方が参画して取り組んでおり、津波への多重防御となるグリーンインフラとして、育樹プログラムなどを体験しながら、震災の記憶や復興の記録を辿り、防災・減災について学べる場所とします。
- ・高砂中央公園においては、水族館設置者との連携による会場運営とし、新しい公園の体験を提供するとともに、東部海岸地域には干潟など生態系において重要な特性を持つエリアがあることも踏まえ、環境保全の大切さなどを家族連れで楽しみ学べる場所とします。

場所	展開イメージ	事業分類
せんだい農業園芸センター みどりの杜	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節を感じる花修景 ・ 子ども向けの体験プログラム ・ 震災からの復興パネル展示 	展示 行催事 展示
せんだい3.11メモリアル交流館 震災遺構仙台市立荒浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災特別企画展示 	展示
海岸公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民参加による育樹プログラム ・ 自然や生き物に親しめるプログラム ・ 震災からのみどりの復興パネル展示 	行催事・協働推進 行催事・協働推進 展示
高砂中央公園 (仙台うみの杜水族館)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民参加による植樹プログラム ・ 新しい公園体験ができるイベント ・ SDGsに関連するワークショップ ・ 震災からの復興パネル展示 	行催事・協働推進 行催事 行催事 展示



せんだい農業園芸センター
みどりの杜



震災遺構仙台市立荒浜小学校



せんだい3.11
メモリアル交流館



海岸公園



高砂中央公園
(仙台うみの杜水族館)

5-6 連携会場



仙台フェアの基本理念・基本方針に賛同し、花やみどり、自然とふれあうことができる施設を、「連携会場」として位置づけ、フェアを一体的に盛り上げます。

〈展開イメージ〉

- ・開催前からのフェア周知やメイン会場と連携した情報発信ポイントとなる会場として展開します。
- ・身近な自然の魅力発信や観光スポット周遊を誘導できるよう、連携した広報を行います。



仙台市八木山動物公園



仙台市野草園



東北大学 学術資源研究公開センター
植物園

6 事業計画

近年の開催フェアにおける来場者属性は、性別では女性が約7割、年代では50代以上が6～7割となっています。

仙台フェアでは、花やみどりに高い関心を寄せるこれらの層に加え、若者や家族連れなどの方々にも来ていただけるよう事業展開を図ります。

6-1 展示計画



「杜の都・仙台」のみどりが育まれてきた歴史や文化を踏まえた視点、みどりが現在のまちの魅力や暮らしにつながる視点などの要素を盛り込むとともに、フォトジェニックを意識した花やみどりの素晴らしさを体感できる展示でフェアを彩ります。

また、東日本大震災で大きな被害を受けた東部地域のみどりの再生や、東部地域を中心とした復旧・復興のあゆみ、これからのまちづくりなどを発信します。

<事業展開イメージ>

会場	展示場所（案）	展開例
メイン会場	青葉山公園追廻地区	<ul style="list-style-type: none"> 大花壇、修景植栽 テーマ型花壇・庭園・農園 テントサイトの設置 フォトジェニックスポット
	西公園南側地区	<ul style="list-style-type: none"> 水辺のガーデンテラス、修景植栽 自然素材を使ったモニュメント等
	広瀬川地区	<ul style="list-style-type: none"> 花畑、散策や憩いの場
まちなかエリア会場	仙台駅ペDESTリアンデッキ 青葉通 定禅寺通 宮城野通	<ul style="list-style-type: none"> ウェルカムガーデン・修景植栽 ケヤキ並木と花に囲まれた憩いの空間創出
東部エリア会場	せんだい農業園芸センター みどりの杜	<ul style="list-style-type: none"> 季節を感じる花修景 震災からの復興パネル展示
	せんだい3.11メモリアル交流館 震災遺構仙台市立荒浜小学校	<ul style="list-style-type: none"> 震災特別企画展示
	海岸公園 高砂中央公園(仙台うみの杜水族館)	<ul style="list-style-type: none"> 震災からの復興パネル展示



大花壇や庭園などによる魅力ある会場づくり



みどりを取り入れた新しいライフスタイルモデルの提案展示



東日本大震災からのみどりの再生や復興支援への感謝の発信

6-2 出展計画



- ・市民活動団体、地元企業、学校、他自治体など幅広く出展・参加を呼びかけ、花やみどりに関する成果を表現する機会とするとともに、技術の向上・継承へと繋がります。
- ・造園や園芸、緑化等の技術を顕彰し、その技術や活動の情報発信と出展作品を通して花やみどりへの関心を高めていただくことを目的に、出展作品を対象としたコンテストを実施します。
- ・グリーンインフラをテーマに暮らしに役立つ技術や最新の緑化資材などをプロモーションする機会とし、多彩なアイデアや技術、みどりが持つ多様な機能や効果を発信します。

<事業展開イメージ>

会場	出展場所（案）	展開例（★コンテスト対象）
メイン会場	青葉山公園追廻地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 造園団体による日本庭園の作庭過程の公開 ・ 県内外の自治体による出展花壇 ★ 企業や団体等による出展庭園や花壇 ★ 愛好家によるハンギングバスケット等の作品出展 ・ グリーンインフラ技術などのタイアップ出展 ・ 全国造園デザインコンクール受賞作品の展示 ・ 愛好家や団体等による生け花や絵画・写真等の作品出展（屋内）



造園業者や園芸団体による
出展コンテストの開催



花と緑の愛好家や市民団体の
作品出展



自治体による出展花壇

6-3 協働推進計画

次

- ・フェアの開催前から市民や、事業者、団体など様々な主体と協力・連携した取組みを展開し、フェアに向けた機運を高めます。
- ・フェアの開催に向けて、子どもたちをはじめとした市民が花壇づくりなどに参加できる仕組みやボランティア養成講座の実施などに取り組み、新たな担い手の育成につなげます。
- ・フェアへの積極的な参加と協働により、フェア開催後の新たな緑の活動やコミュニティ形成などのレガシーへとつなげます。

<事業展開イメージ>

会場	箇所	展開例
メイン会場	青葉山公園追廻地区 西公園南側地区 広瀬川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたち、市民の参画でつくりあげる大花壇 ・ 市民ボランティアの参画による花壇管理 ・ 花や緑の市民団体が実施する園芸講座や体験プログラム ・ 学校等との連携によるアートプランター制作や花苗植え付け
まちなか エリア会場	都心部の 街路や公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民ボランティアの参画でつくるウェルカムガーデン ・ 市民活動団体や企業等と連携した街路や公園でのイベントや修景 ・ 企業協賛によるおもてなし花壇などの整備
東部 エリア会場	海岸公園 高砂中央公園 (仙台うみの杜水族館)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ふるさとの杜再生プロジェクト」と連携した植樹・育樹プログラム



子どもたちや市民との花壇づくり



市民ボランティアの養成講座



小学生が制作した
アートプランターによる修景



「ふるさとの杜再生プロジェクト」
と連携した植樹・育樹

6-4-1 行催事計画



「新たな百年の杜づくり」を主なテーマとした、みどりに触れ学ぶことができる行催事や、子どもから大人まで性別問わず幅広く楽しむことができる、仙台の魅力を活かした“暮らしたい、訪れたい、参加したい”を呼び起こす行催事でフェアを盛り上げます。

<公式行事>

内容（案）	展開例
プレイベント	・ 1年前カウントダウンイベント
内覧会	・ 開会直前に各関係者、マスメディア等を招待
開会式	・ オープニングセレモニー
閉会式	・ クロージングセレモニー



カウントダウンイベント
(ひろしまフェア)



開会式（信州フェア）

<主催者催事>

会場	展開例
青葉山公園追廻地区 ・（仮称）公園センター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い世代の、緑や花への関心や知識の度合いに対応した様々な講座 例) ガーデニング、フラワーアレンジメント講座等 ・ 親子で参加して楽しめる体験教室 例) 母の日向けプレゼント作りの体験教室等
・ 芝生広場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親子や学生、社会人、高齢者等の様々な世代に芝生の新たな使い方を提案するイベント 例) 芝生ヨガ、アウトドア体験、朝活イベント等
・ ステージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幅広い世代が楽しめる多彩なジャンルのステージイベント 例) トークショー、コンサート、一般市民の演奏等
・ その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来場者が楽しみながら花緑の知識を深められる企画 例) 会場案内ツアー、クイズラリー等

<主催者催事>

会場	展開例
西公園南側地区	<ul style="list-style-type: none"> 自然の中で、親子で楽しく過ごせるアトラクション 例) ツリークライミング、動物ふれあい体験、ミニSL等 自然にある素材を使用したものづくり体験 例) 木材のキーホルダー制作等
広瀬川地区	<ul style="list-style-type: none"> 川の自然を身近に感じられる体験 例) 川魚の観察会、川の環境を学ぶワークショップ等

<その他催事>

会場	展開例
まちなかエリア	<ul style="list-style-type: none"> 市民活動団体、まちづくり団体、企業等と連携したイベント
東部エリア	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加による植樹プログラム SDGsに関連するワークショップ 子供向けの体験プログラム



花と緑の講座



芝生ヨガ



会場案内ツアー

6-4-2 全国都市緑化祭



全国都市緑化フェアの開催期間中、皇室にご臨席賜り記念祝賀会や式典等を行う公式行事「全国都市緑化祭」を開催します。

内容(案)	展開例
全国都市緑化祭	<ul style="list-style-type: none"> 記念祝賀会 記念式典 記念植樹 庭園コンテスト表彰



全国都市緑化祭
(はちおうじフェア)

6-5 観客誘致・広報宣伝計画

6-5-1 観客誘致計画 販

仙台の豊かな自然環境の魅力を体感できる仙台フェアのPRやキャンペーンを展開し、開催までの機運を高めるとともに、エリアを設定し効果的な集客事業を展開します。

<事業展開イメージ>

① 県外からの集客

- ・仙台市観光統計基礎データでは、本市宿泊者を居住地別にみると関東地方が最も多く、次いで東北地方が多くなっています。
- ・こうしたことから、首都圏・関東地方及び東北地方を県外からの集客エリアとし、県内の観光資源の魅力と合わせて発信するとともに、旅行会社等と連携した取組みを展開します。
- ・仙台城跡や震災遺構などの様々なコンテンツと一体的にPRすることにより、教育旅行先としての活用の促進を図ります。
- ・インバウンドについては、日本人に比較して滞在日数が長く広域観光を好む傾向があることから、東北各県の観光案内所と連携した、仙台フェアの情報発信についても検討します。
- ・団体客の受け入れ体制を整えるため、会場に隣接した大型バス用の駐車スペースを設けます。

本市宿泊者の居住地別割合（単位：％）

	宮城 県内	関東 地方	東北 地方	北陸・ 中部	近畿	北海道	九州・ 沖縄	中国・ 四国	外国人	計
平成30年	24.7	31.3	20.8	5.2	4.8	3.1	1.7	1.3	7.1	100.0
令和元年	24.5	29.8	18.8	5.0	4.4	2.2	1.6	1.2	12.4	100.0

出展：令和元年 仙台市観光統計基礎データ

② 市民・県民の集客

- ・まちなかでのバナー掲示、公共交通機関や商業施設での広告掲示などにより、フェア開催の認知度向上を図ります。
- ・小学校等の自然体験学習の場としての活用、市民協働事業の推進を図ることにより、市民参加を起点とした集客を促進します。
- ・小学校や中学校の校外学習としての活用の促進を図ります。
- ・既存イベントやお祭り等と連携したキャンペーン展開による誘客を図ります。
- ・スタンプラリーなど各会場を楽しみながら周遊できる集客事業を展開します。

③ 緑化関係者等の集客

- ・準備段階の各フェーズにおいて、緑化関係の全国の関連団体、企業等へ仙台フェアの情報発信することで集客を図ります。

6-5-2 広報宣伝計画 **販**

準備段階から積極的な情報発信を行い、開幕までの機運を高めるとともに、観光誘致策と連動しながら、集客エリア、ターゲットに対応する媒体を活用し、効果的な広報宣伝を実施します。

<事業展開イメージ>

区分	展開例
ビジュアル・アイデンティティ	<ul style="list-style-type: none"> フェア愛称、ロゴマークの活用 (チラシ、ポスター等の広報媒体、ノベルティグッズ等)
キャンペーン活動	<ul style="list-style-type: none"> 仙台駅ペDESTロリアンデッキへのウェルカム花壇やカウントダウンボードの設置 プレイベントの開催 既存イベントや祭り、商業施設等とタイアップした広報活動
媒体・メディア ・ 広報ツールの活用	<ul style="list-style-type: none"> 市政だよりなど公的媒体の活用 テレビ・新聞等のマスメディアによる広報宣伝 まちなかでのバナーや横断幕の掲出 公共交通機関や商業施設等でのポスター、チラシ等の掲出 フェア会場のみどころと仙台観光スポットをまとめた周遊ガイドブックの作成 インバウンド向け多言語対応の会場マップ等の作成
Web・SNSによる 情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信基盤としての緑化フェアホームページ開設 SNS を活用したフォトジェニックスポットやイベントの開催風景などのタイムリーな情報発信 イベントやシンポジウムについての動画による情報発信やリモート参加の推進
来場者・市民が主体となった 広報展開	<ul style="list-style-type: none"> 来場者が撮影した投稿によるミニフォトコンテストの開催 若者の視点を取り入れた広報企画や情報発信の展開



まちなかでの
バナーや横断幕の掲出



フォトジェニックスポットの設置



SNS を活用した
タイムリーな情報発信

6-6 飲食・物販計画

暮

販

会場のみどりや花の演出を活かした、豊かなみどりの中で楽しく食を堪能できる空間づくりとします。

<事業展開イメージ>

- ・みどりや花があふれる庭園と飲食や休憩ができるスペースの配置を工夫し、自然を感じながら食を楽しめる空間を提供します。
- ・地場の食材や農産物、郷土料理等を取り入れたメニューを提供します。
- ・みどりや花にちなんだグッズや花卉などの販売をします。
- ・まちなかエリアにおいては、人の周遊や賑わい、憩いの場を創出するため、周辺店舗や事業者からの出店参画について検討します。
- ・飲食の調理や提供、物販にあたっては、プラスチックごみや食品ロスの削減に努めます。



フェアで使用する植物や花卉などの販売



みどりのある空間で寛ぎある食体験の提供

6-7 会場運営・交通輸送計画

6-7-1 会場運営計画

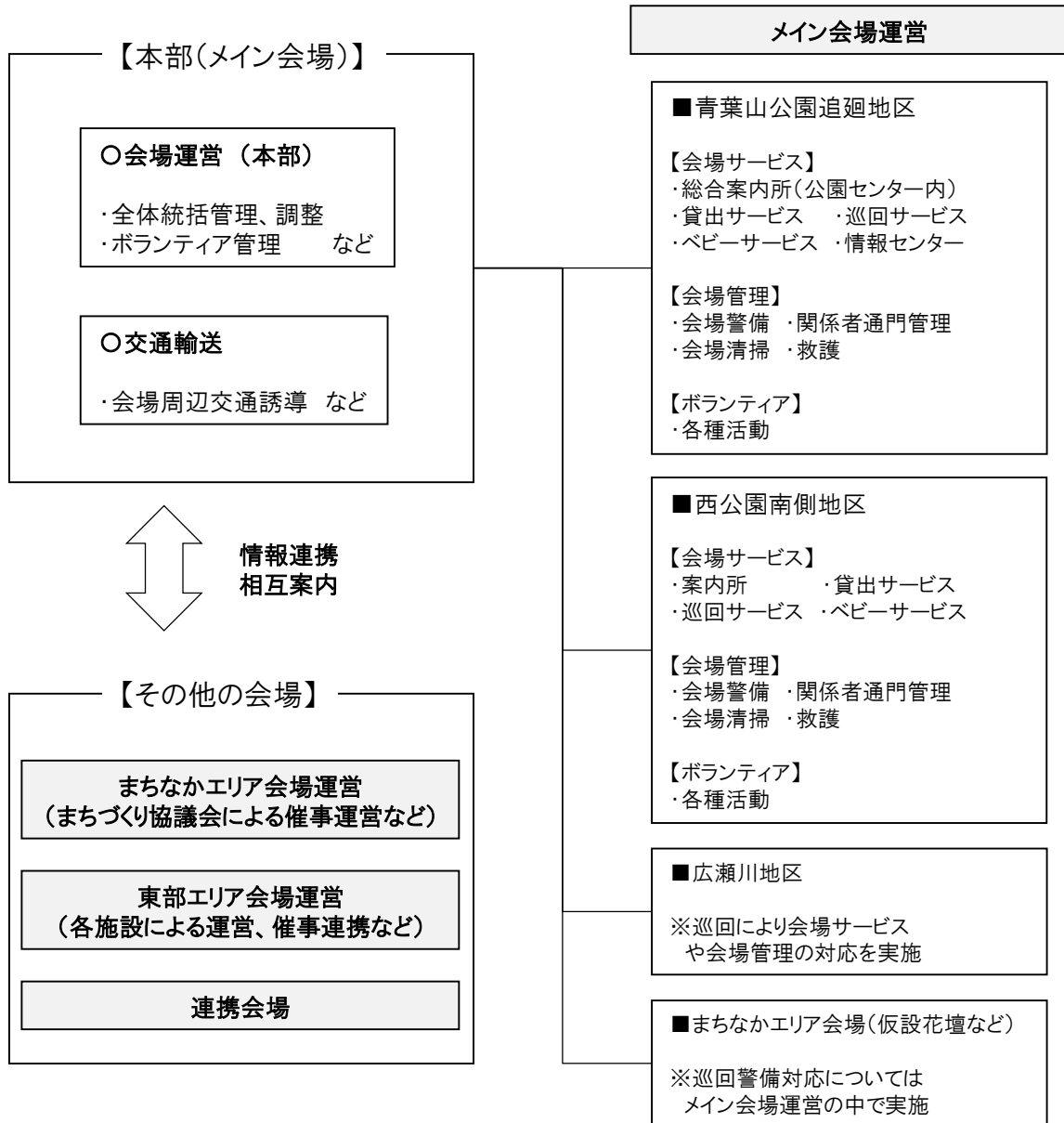
新型コロナウイルス感染症対策も含め、誰もが安全で快適に楽しめるユニバーサルな観点を取り入れた会場運営とします。

- ・メイン会場には「総合案内所」を設置し、車イスやベビーカーの貸出し、授乳室・救護室、情報発信などの来場者サービスを展開します。
- ・青葉山公園追廻地区においては、整備中の(仮称)公園センターを総合案内所として位置づけ、仙台フェアのイベント案内や周遊の促進を図る観光情報発信の拠点とします。
- ・総合案内所の機能を補完するため、来場者数や動線などを考慮した「案内所」の設置を検討します。
- ・ベンチや手荷物保管場所の設置、デッキチェアやハンモックの貸出しなど、来場者サービスの充実を図ります。
- ・会場施設の消毒や、エントランス付近での検温、来場者の密集・密接が生じないような誘導など、新型コロナウイルス感染症対策を徹底します。
- ・ボランティアセンターを設置し、植物管理などのボランティアの全体管理などを行います。
- ・フェア全体を統括する運営本部を設置し、会場内の警備・救護、日々の清掃、来場者調査、危機管理体制などをとりまとめます。
- ・会場サインの多言語化により、インバウンド向けの案内充実を図ります。
- ・アンケートなどの来場者調査により、期間中における会場運営の改善や、フェアにおける事業効果の検証を図ります。

<事業展開イメージ>

会場	箇所	展開例
メイン会場	青葉山公園追廻地区 西公園南側地区 広瀬川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合案内所 ((仮称)公園センター) ・ 案内所 ・ ボランティアセンター ・ フェア運営本部 ・ 会場運営スタッフによる巡回など
まちなかエリア会場	都心部の街路や公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会場運営スタッフによる巡回 ・ 企業・団体等が主催する行催事との連携
東部エリア会場	せんだい農業園芸センター みどりの杜 せんだい3.11メモリアル交流館 震災遺構仙台市立荒浜小学校 海岸公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各施設管理者との連携による運営
	高砂中央公園(仙台うみの杜水族館)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水族館設置者との連携による運営

<会場運営体制>



6-7-2 交通輸送計画

訪れた方々が円滑に各会場まで移動できるよう、十分な案内誘導とサイン等の充実を図るとともに、環境にやさしい公共交通機関の利用を促進しながら、各会場の地域特性に合わせた交通輸送体系計画とします。

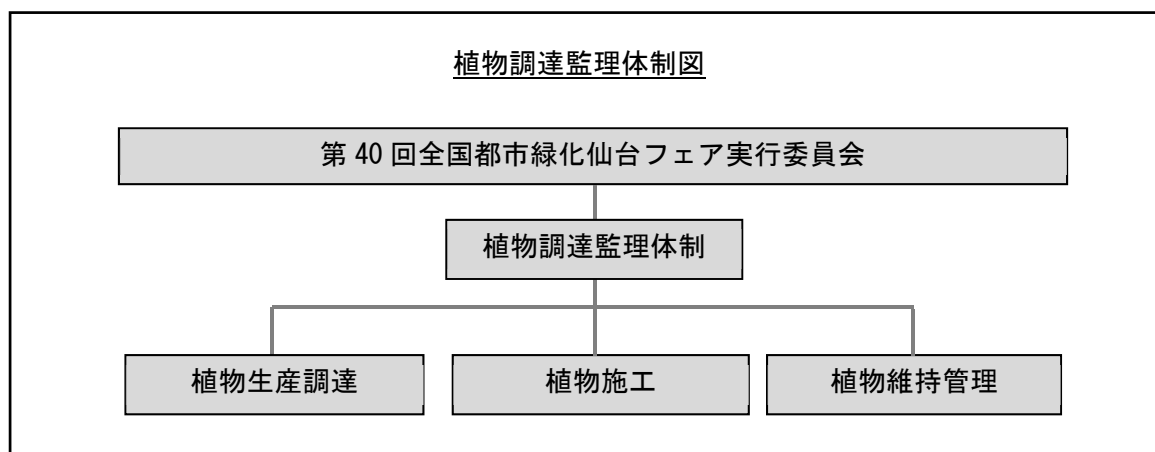
- ・メイン会場やまちなかエリア会場は、周辺への生活環境へ配慮し、一般利用の自家用車駐車場は設定せず、地下鉄・バスなどの公共交通機関の利用や徒歩での来場を基本とします。
- ・東部エリア会場は、地下鉄東西線・バスなどの公共交通機関の利用促進のほか、各施設と連携した効率的な来場計画とします。
- ・適切な交通誘導のための案内看板設置や広報の充実、パークアンドライド駐車場への誘導策を検討します。
- ・会場周辺における路上駐車・駐輪の防止対策を行い、一般交通への影響の軽減を図ります。

<事業展開イメージ>

会場	箇所	展開例
メイン会場	青葉山公園追廻地区 西公園南側地区 広瀬川地区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下鉄東西線・バスの利用や徒歩での来場の促進 ・ メイン会場近傍にゆずりあい駐車場を設置 ・ タクシープールや団体バスの乗降所を設置 ・ 周辺に大学や高校があることから、自転車やバイクの駐輪場を設置
まちなか エリア会場	都心部の街路や公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下鉄・バスの利用や徒歩での来場の促進 ・ エリア内における既存の駐輪場情報の広報充実 ・ 街路の花による修景やまちなかの見どころを掲載したパンフレット作成など、まちなかの徒歩による周遊利用を促進
東部 エリア会場	せんだい 3.11 メモリアル交流館 せんだい農業園芸センター みどりの杜 震災遺構仙台市立荒浜小学校 海岸公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下鉄東西線・バスの利用による来場の促進 ・ 防災観光ツアーや植樹・育樹プログラム参加者のためのシャトルバス運行の検討 ・ 管理者との連携により施設内の駐車場を活用
	高砂中央公園 (仙台うみの杜水族館)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公共交通機関の利用による来場の促進 ・ 公園内駐車場を活用するとともに、近隣の臨時駐車場の設定を検討

6-8 植物調達監理計画

- ・多品種かつ大量の植物を使用することから、植物の安定した生産調達、確実な施工、効率的かつ効果的な維持管理を円滑に進めるための植物調達監理体制を構築します。
- ・県内市内の花弁の生産状況や特徴を踏まえつつ、生産団体等との連携協力により計画的かつ安定的な生産と供給を確保し、花卉産業の活性化や市民への花卉のより一層の普及を図ります。



① 植物生産調達体制

- ・一般の流通や生産に支障のないよう、安定的に品質の高い植物を効率的に生産調達するため、県内の生産者団体、流通業者、造園団体で構成する植物生産調達体制を整えます。

② 植物施工体制

- ・植物の施工は、2022年秋に施工する「秋植え植栽」、開幕前となる2023年春に施工する「春植え植栽」、会期中盤の季節の変わり目に施工する「ローテーション植栽」に大別し、調達時期や数量に応じた施工体制を整えます。
- ・会場近隣に「植物バックヤード」の設置を検討し、大量多品種の植物を納期毎に納品・検収し、施工との調整を図り品質を保持するための管理体制を整えます。

③ 植物維持管理体制

- ・開催期間中の植物の維持管理は、会場運営計画と連携し、実行委員会事務局による日常的な維持管理作業を行うとともに、ボランティアの参加による維持管理方法を検討します。

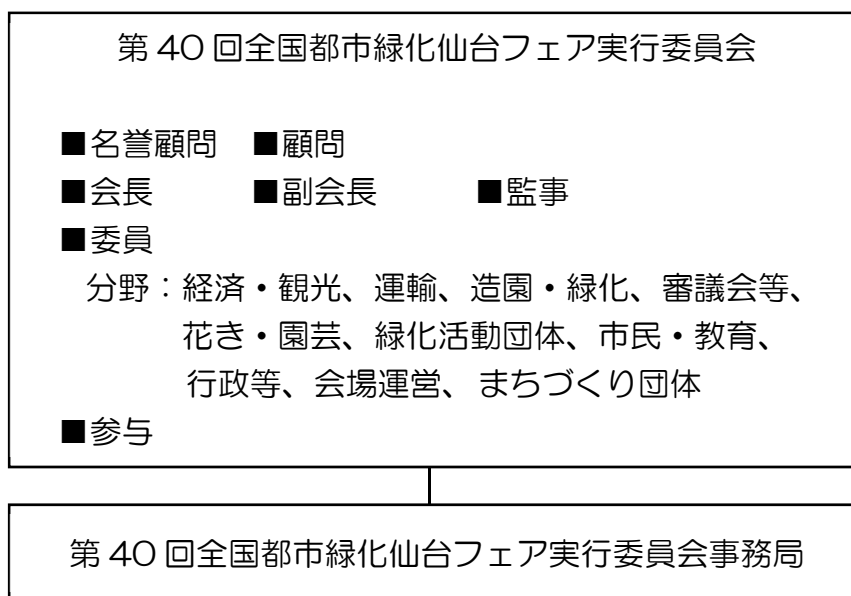
7 事業推進基本計画

7-1 事業推進体制

(1) 基本的な考え方

- ・基本計画の策定後、フェアの円滑な事業推進・協力連携等を目的に、主催者、行政、各分野の関係団体等により構成される実行委員会を設置します。
- ・実行委員会のもと、各事業を推進・実行するための組織として実行委員会事務局（以下、事務局）を設置します。

(2) 体制図



7-2 事業推進スケジュール

	開催3年前 R2 (2020) 年度	開催2年前 R3 (2021) 年度	開催1年前 R4 (2022) 年度	開催年 R5 (2023) 年度
事業計画	基本構想 大臣同意	基本計画	実施計画 会場設計	会場運営・開催準備 会場整備
実行体制		★ 実行委員会 設立・総会	★ ★ 総会 総会	★ 実行委員会 解散
				仙台フェア開催 4/26 ～6/18
				撤去

全国都市緑化仙台フェア基本計画検討会 委員名簿

区分	氏名	所属・役職
座長	涌井 史郎	東京都市大学 特別教授
副座長	遠藤 進	公益財団法人 仙台市公園緑地協会 専務理事
委員	内海 一富	一般社団法人 宮城県造園建設業協会 前会長
委員	鹿又 久孝	河北新報社 取締役営業局長
委員	工藤 良幸	仙台市小学校長会（仙台市立南光台東小学校 校長）
委員	古積 昇	一般社団法人 日本造園建設業協会 宮城県支部 支部長
委員	今野 彩子	株式会社 ユーメディア 取締役
委員	今野 薫	仙台商工会議所 専務理事
委員	佐藤 修	仙台緑のボランティア団体連絡会 会長
委員	佐藤 重喜	宮城県花と緑普及促進協議会
委員	佐藤 美嶺	防災士／西公園プレーパークの会 理事
委員	庄子 真岐	石巻専修大学経営学部 教授
委員	高橋 修作	公益財団法人 仙台観光国際協会 常務理事
委員	深松 努	広瀬川1万人プロジェクト実行委員会 副委員長
委員	舩谷 成幸	宮城県土木部河川課長
委員	村上 晃史	一般社団法人日本旅行業協会 東北支部 支部長
委員	渡部 桂	東北芸術工科大学デザイン工学部 建築・環境デザイン学科 教授

(敬称略)

検討会の開催日程

開催日	検討内容
第1回 (2021.4.23)	検討会の運営について、フェアの概要、フェアの経緯及び今後の予定、基本計画（案）について
第2回 (2021.7.12)	基本計画（最終案）について